

科目名	漢方薬物学特論	選択	1単位
-----	---------	----	-----

◎責任教員

担当教員	◎准教授 山岡 法子 教授 細山田 真						
------	------------------------	--	--	--	--	--	--

開講年度	2020年度	配当年次	1～4年	配当学期	前期	授業方法	講義
------	--------	------	------	------	----	------	----

授業の概要	漢方薬は、近年社会的ニーズの高まりを受け、現代医療において用いられる機会が増えている。本講義では、西洋医学とは異なる漢方医学の病理認識の理解と近代医学への処方導入の意義について考え知識を得る。現代医療における漢方薬と生薬の適正利用に関して、薬理学的作用についての考察を行う。また、医療現場で予想される漢方薬の利用について、問題点の理解および説明ができる知識を習得する。講義内では事前課題に対し各自1回発表を行う。課題に対し、自分の意見を持ちより討議を行う機会を有する。
-------	--

授業の到達目標	①生薬・漢方薬理学については、薬として生体に及ぼす作用の詳細を最新の論文を読み知識を習得する。 ②臨床現場で頻用されている漢方処方について、現時点で明らかになっているエビデンスや現代医療への応用の現状について知識を習得する。
---------	---

授業計画	回数	担当者	行動目標
	1	山岡 法子 准教授	漢方薬物特論の概要について説明できる。
	2	細山田 真 教授	生薬・漢方薬理学について概説できる。
	3	細山田 真 教授	生薬・漢方薬理学について概説できる。
	4	山岡 法子 准教授	漢方薬原料となる生薬の流通、生薬の国内栽培の現状について概説できる。
	5	山岡 法子 准教授	現在利用頻度が高まっている漢方処方について。エビデンスを含めて説明できる。
	6	山岡 法子 准教授	現在利用頻度が高まっている漢方処方について。エビデンスを含めて説明できる。
	7	山岡 法子 准教授	現在利用頻度が高まっている漢方処方について。エビデンスを含めて説明できる。
	8	山岡 法子 准教授	最新の漢方薬のトピックについて説明できる。

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	事前学修：指定の参考資料を読み、自分の意見を述べるように予習をする。前回の授業内容（プリント等）を復習し、用語の意味等を理解しておくこと。 事後学修：授業中の疑問点をまとめ、プリント等を利用し、次回の授業までに解決しておくこと。 当該期間に30時間程度の予復習が必要となる。
----------------------	---

教科書	なし。
-----	-----

参考書	課題とする参考資料の印刷物は講義時に配布する。
-----	-------------------------

成績評価の方法および基準	課題レポート100% 授業の到達目標の達成状況を提出レポートにより点検、評価する。欠席は1回につき10点減点する。
--------------	--

その他履修上の注意事項	発表やレポートに対し、講義の中で解説しフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。
-------------	--